

平成二十三年度「花のまわりみち」

川柳入選句

三浦 宏選

天地人・秀逸

「天位」

琴の音と桜枝のゆれの「コラボなり

筧 都起夫

（評）

琴の音だけに浸っても、59品種もある「花のまわりみち」の桜だけに見とれていても、この句のような感慨は得られまい。両者の共同作業だとした作者の感性を多として、拍手を贈りたい。

「地位」

おくゆかしい松月まつづきそつでないわたし

大野 順子

（評）平成3年第1回の「今年の花」も「松月」。20年ぶりに再登場。その、

しっとりした奥ゆかしさにうなずきながら、比べて自分は少しおっちょこちよいではないのかな、と自省してユーモアを誘った。

「人位」

大手毬たまりさわってみたいーつーつ

根本 康子

（評）

小さい花が枝先に密集して、大きい手まり状態になる。両手で受け止めたくなる感じがよく出ている。福島県からのご来場、3句のご出句の中に地震の句もあった。お見舞いを申しあげ、お元気なご送日をお祈りする。

「秀逸」(五句)

花仰ぎみちのくの人思いやる

正山史明

(評) ジーンとしてくる。人としての温かさが深く胸を打ち、被災の方々への励ましにもなればと思う。

ろうたけた楊貴妃ウイंक足をとめ

萩原秀行

(評) いわくありげな花の名に作者の川柳ところが動いた。花のウイंकを見逃さなかったところはさすが。

胎の子に語りかけてるまわりみち

河村幸子

(評) 表現の選択も難しいが、着想のひらめきで勝負がつくこともある。桜並木で、胎児に話しかけている将来のママに拍手を送る。

せっかくのさくらは風のなすがまま

楠山東石子

(評) 雨模様にはらはらはさせられ、やっと咲いたのに、そよ風にさえ、持つて行かれるさくらの従順さを見落とさなかった。

そよ風でさくらシャワーを浴びるみち

沖本京子

(評) ひらひらと舞い落ちる桜を、まるでシャワーのようだと思つた作者の感性が瑞々しい。

佳作

(十八句)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 被災地へ想い届けとまわりみち | 川上 咲良 |
| 一枝を届けあげたい被災の地 | 大前 明子(明泉) |
| 花盛り被災地思い涙ぐむ | 中 植 紀 子 |
| 咲く桜想いそれぞれまわりみち | 熊 谷 純 |
| 松月が人の多さにほおを染め | 西 畠 悟 |
| 選ばれて松月の精人を呼ぶ | 川 平 厚 |
| 今年の花松月小樹天を向く | 勝 山 君 江(きみこ) |
| 松月の淡き桃色初恋か | 稲 垣 美知恵 |
| 二分咲きに心を残しまわりみち | 山 本 和 夫 |
| 名付け親に由来聞きたや桜の名 | 大 古 加代子 |
| さくら見て人見てまたまたさくら見る | 濱 田 源 一 郎(花紅葉) |
| 昼もよし夜桜もよしまわりみち | 八 藤 秋 登 |
| さくら見ていやな事すぐわすれちゃう | 長 尾 菜 穂 |
| 花見来て彼女の姿ばかり撮り | 高 尾 亨 |
| うなずける美女には花も道開ける | 神 垣 清 一 |
| 葉桜もまたよしとする雨のあと | 山 根 ナツ工 |
| 幼児が両手に受ける花吹雪 | 松 井 哲 夫 |
| もう一度きつと来ますとまわりみち | 馬 越 千 恵 |

選者吟

復興のよるべとなるかまわりみち

三 浦 宏